

雪崩発生時を想定した官民連携による危機管理対応訓練 概要書

南魚沼地域整備部

1. はじめに

雪崩発生時を想定した実践的な官民連携の危機管理対応訓練を実施し、災害発生後の初動対応における現地調査や情報伝達について考察すると共に、本活動を通じて、平時から地域整備部職員および関係者の危機管理対応力の向上を図ることを目的とする。

2. 訓練の概要

この「雪崩発生時における危機管理対応訓練」は、関係機関として、南魚沼地域整備部、南魚沼市消防本部、南魚沼警察署、南魚沼市、除雪関係者を集めて行った。開催期日は平成29年2月7日、開催地は越後新潟ムイカスノーリゾート駐車場(新潟県南魚沼市小栗山地内)である。訓練において想定した状況設定は以下のとおりである。

- 雪崩想定発生箇所: 一般国道253号小栗山スノーシェッド手前
- 雪崩発生日時: 平成29年2月7日午前9時00分頃発生
- 道路への雪崩流出量: 延長50m、幅8m、高さ2mで、国道253号が全面埋塞

また想定被害の状況および訓練の実施状況は以下の通りである。

9:00～9:05

通行車両の運転手が発見、地域整備部に通報。同部から市、警察、消防、除雪関係者へ情報を伝達、かつ現地への出動を要請(図1)。

9:20～9:30

関係者が現地へ集結して現地対策本部を設置(図2)。現場で雪崩発生状況や、被災状況等を確認。通行規制(全面通行止め)の実施。

9:30～9:55

人や車両等が雪崩に巻き込まれていないか確認。ゾンデ棒による搜索訓練開始。雪崩に埋もれた被害者(ダミー人形)を発見、病院へ搬送。

10:05～10:15

搜索活動の終了を受け、斜面の残雪処理、道路上の排雪作業。

10:20

道路の安全を確認、通行規制を解除し、関係機関に通知。現地対策本部を解散して訓練終了。

3. 本訓練の特徴

本訓練は平成22年、23年に実施した訓練の課題である初動対応、情報伝達に重点をおいた。また、道路管理者・交通管理者・消防救助・除雪関係者を現地に集めて行った官民連携の点に最大の特徴がある。時として関係諸機関は連携の悪さが指摘されるが、このような訓練を通じて、そのような点は克服されるであろう。さらに本訓練は被災者搜索活動にICT技術を導入した、先進的なものであった。本訓練には約60名という多数の人員が動員、その他見学者も約60名参加し、訓練後にゾンデ搜索体験、ICT技術見学会を実施した(図3)。

4. 訓練を終えて

本訓練は、道路管理等関係諸機関の多数の参加者が実際に現場に集まって行ったもので、その意義は極めて大きい。今後も、定期的な訓練を

実施することが必要である。また、本訓練の動画を作成し、マニュアルとして広く周知活動を行うことで、初動対応及び情報伝達等の知識を身につけることができる。



図1 地域整備部本部の情報伝達訓練



図2 現地対策本部の設置(ドローンによる撮影)

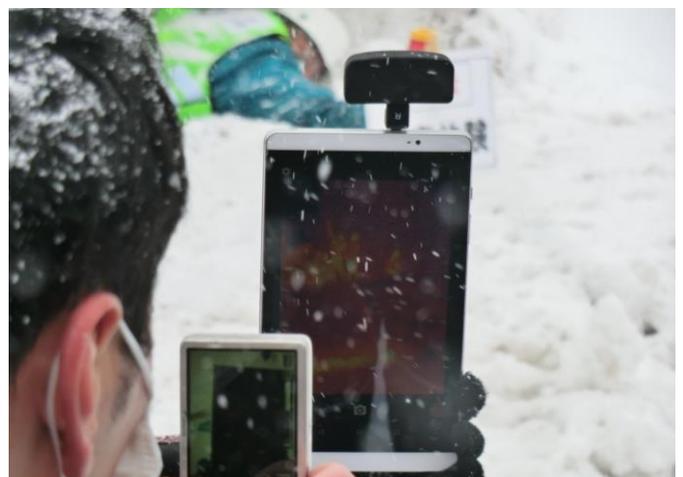


図3 ICT技術活用事例(サーモグラフィカメラ)